



「食べものから学ぶ資本主義経済の歴史と現在」勉強会開催

講師：京都橘大学 経済学部経済学科 准教授 平賀 緑先生（1月11日）
ひらがみどり

食の確保は 食と農を取り囲む政治経済から見直すことが必要

資本主義に組み込まれた格差社会

産業革命以降の、都市部の工場労働者の胃袋というまとまった市場ができたところに、売るための食品を作る産業ができ、食べものが商品となり、生産から供給までの仕組み（サプライチェーン）ができ、大量生産・大量消費、そして廃棄してきた。

人の健康・いのち・自然環境は切っても切れない

世界規模で経済成長しようとする、どこかで歪みが出てきて地球が悲鳴を上げる状態。格差社会など政治的な事情が背景にある。一部の人がすごくりッチになり、もう片方で絞りに取られている人や自然があるということが食べものから見えている。

経済成長経をこのまま続けていけるの？
今後、どう打開できるの？

国民にまともな食を確保する施策が今までなかった！

食料・農業・農村基本法の見直しで「国民一人一人に食料が行き届くよう、平時から、食糧安全保障に向けて取り組みます」と今頃アピールする政府。今だけ金だけ自分だけの政治は終わらせないと、食の貧困は続く…

公共調達で安全な食の提供を

全体的なシステムを見直し、その根本から取り組まないと今まで通りではもう地球も人も立ち行かない。国民の健康といのちを支えるため、学校給食の無償化を着実に進め、安全な食の提供をすることが重要。

人も自然も壊さない経済を

行き詰まった資本主義経済の現状そこに至る世界史と現状を学び、本来の経済である経世済民「世を経め（おさめ）、民を濟う（すくう）」のために、これからも探求しながら声をあげていきます。



何度も提案要望してきた 学校給食無償化 実現！

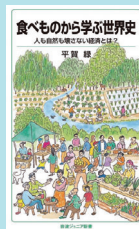
市長は、やっと学校給食無償化を打ち出しましたが、「黒字の間で」との条件付きで、4月からではなく年度途中から。無償化で食の安全の質を下げないこと、むしろ質を上げる必要があります。引き続き、未来を担う子どもたちのため、地球のために安全安心な食を求めて、声をあげてまいりましょう！

森あやこのおすすめ本

勉強会で活用した、平賀緑先生の著書です。どちらも岩波ジュニア新書なので、とても分かりやすく書かれています。



資本主義や金融化された食、現代社会の問題など取り上げた内容。



食べものを「商品」に変えた経済の歴史を紹介。

「食べものから学ぶ現代社会
私たちが動かす資本主義のカラクリ」
定価 940 円

「食べものから学ぶ世界史
人も自然も壊さない経済とは？」
定価 820 円

世界の平和が土台であることが何より大事！